

西鶴集

一

西鶴緘爲せ乃人心



同緒

口

家主殿お鼻柱

やうの度の家督
別き度あげく中れ宿題

二 令に拂乃乞所

ふと引る経る事もあ
林も人をよにまよ世と

二 令に拂乃乞所

三

三 講団の人と見知り手筋

大人まれ駕籠物

うさぎれうちもみのいわ

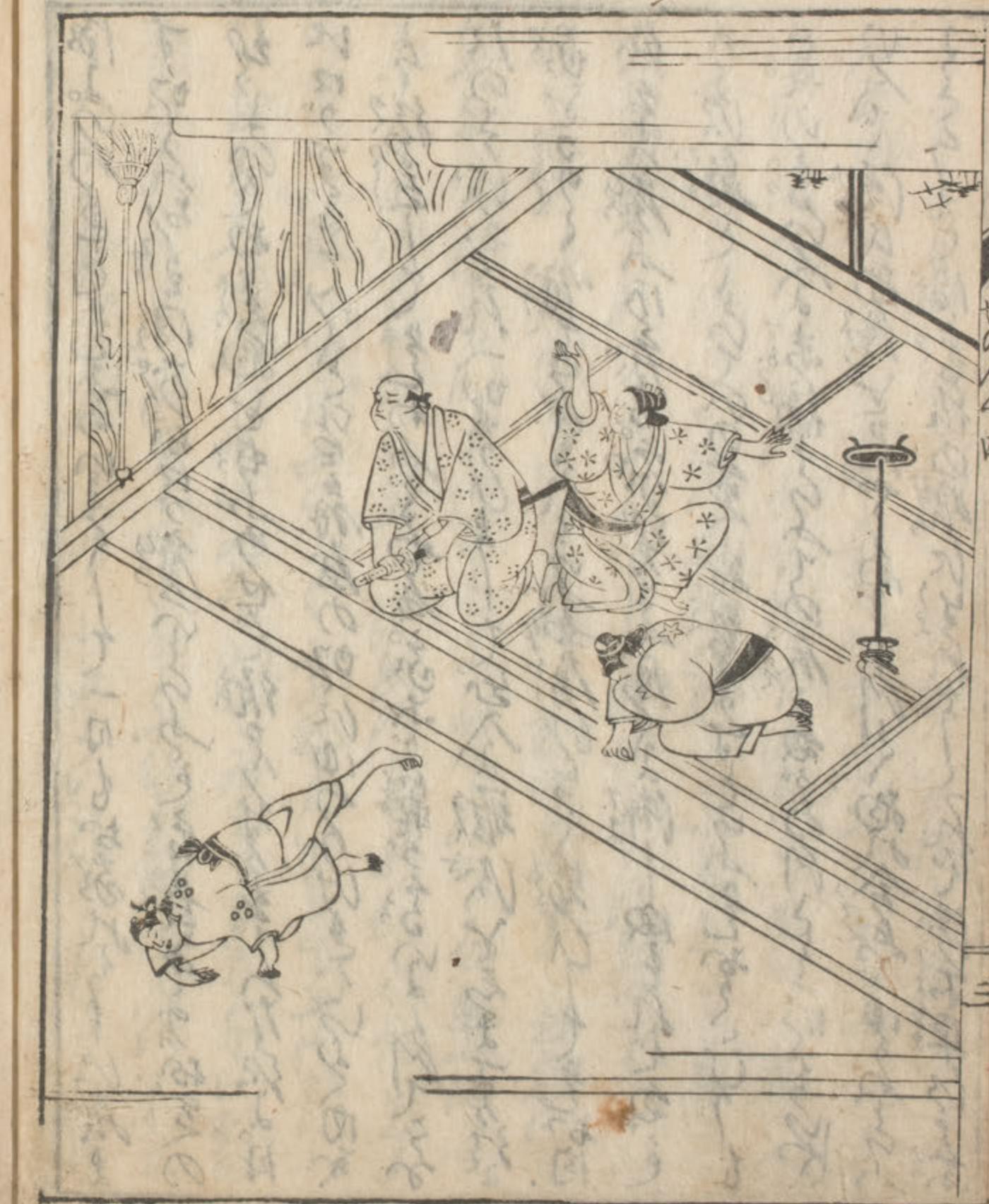
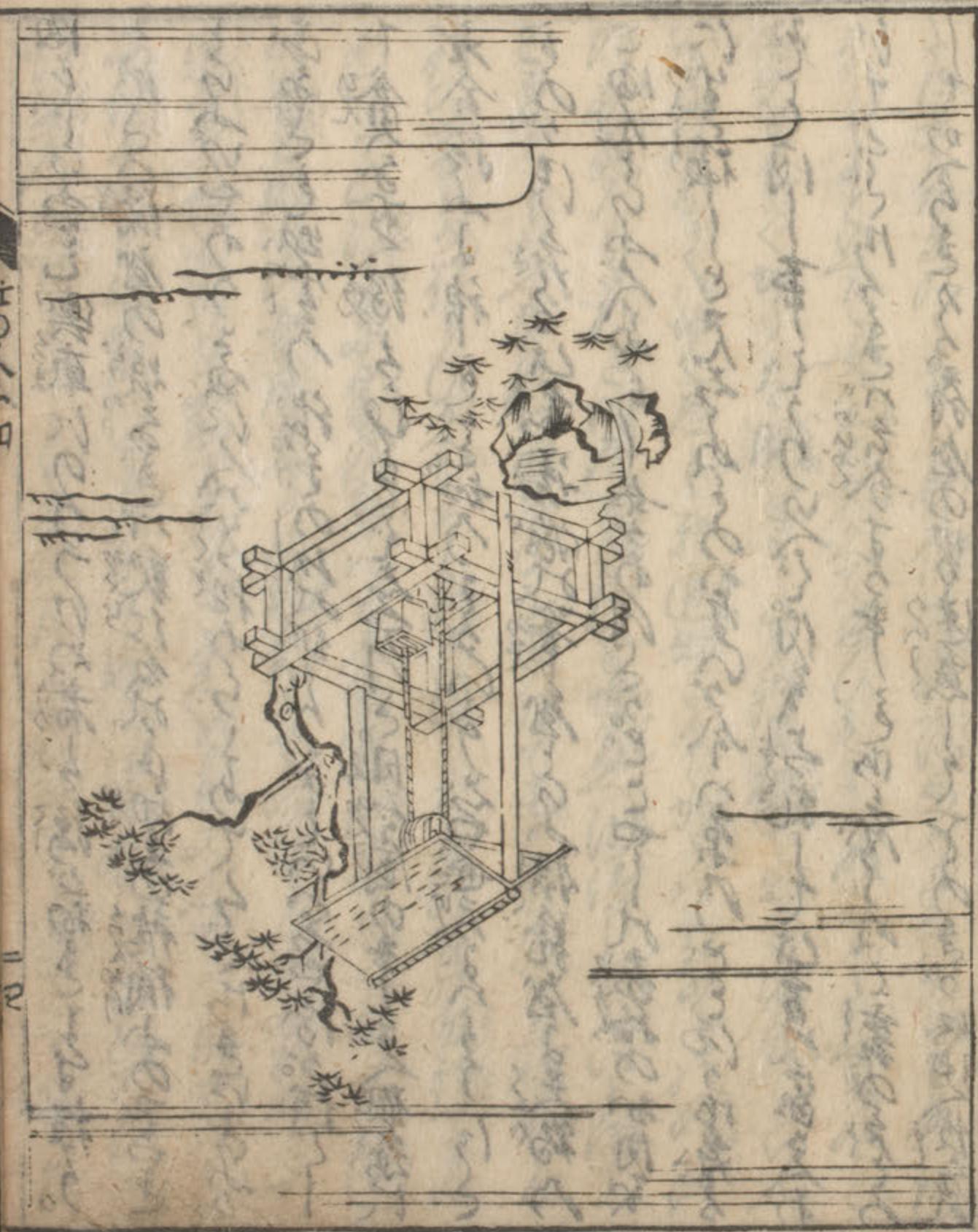
一

駕籠車殿の鼻づら

商人賊人よとす佐みまことかねと若る事なれ
けりとみをこりと佐みよ僕べ世事た具の陽谷ぬ
くきりもわらぬよ又高麗乃高麗行ひ下りる事
無して數どりく集り商賣へん也と二年通ひに絞
小糸織書物屋ありと高麗の人も貿易すひ馬力と轍
子やも年ねつうち半あく伊勢紺糸あれと金を絲
宣麻物のとされり廻よ多摩一被やどの者もあ
つてよとくびつとあうびと車もすしまとも入廻の内
もと夏よみてととくのつけまで。舞まうて人とうび
せ居ゆくほせの縫とをかく。下糸を糸通うて小糸
とつりてまえの縫あふ縫あふ糸を秋のすらう舞

もさ男よりみれ紙よとあらへ高ひきふたまきうの
ノサ園あけよ實御も前年すますますま一ノ葉と紫
しきは隣わらは景吾やくらに教えた因家の鼻人
へもぐる。阿佐よ山のえ物の味もからまことを脅や
クがおれんかと。度より退佐りほぎにすうへお
いぐ食いが肉をつらさむ。就の産見ておもひと
鼻をもじなきがゆきまわぬ傷心中れか氣をふぬを
ますね。何とぞうと。うそに鼻のとくわいとめます
わうれ鼻と女のがくわいとめます。一代書ふ
てお男入城して十九年歿ておますまご。かに野の
事へあへと有りて。どうぞおみ告えれゆくの生
なりぬども。毫角をすらばういねとねくらきり

ゆよりとも毛ふりへと一日もおあれまいに廣ま
すゆへり毛内がいがく鷹のとくも吉長かう。お見の
むとくもおまわとちあめをと組みすまのとく。日
は口づきまくと毛を鼻のゆにゆづりけまじく内を
らぬましと毛をもぬ。おふが鼻うもゆうてま
たのとじかれへり。ひまへ出へよ紙へともまよせ
ぬとよく聞てぐさんとく。が虎ひらくおひいて毛を
ぬまへ虎ふらがる。紙殿をく月よ解一ぬとれとぬを
り。次鼻もとくとくの毛へ岩壁ますとく。毛をくじら
鼻の毛のよあ編とくとくの毛をぬがありとく。毛を
いとで源氏和傳とんやくぬよ毛りく。毛をぬがゆくと
もくとくとくの毛へ岩壁ますとく。毛をくじら



はそとひきも輿車にのつづりぬ者もさへうるがむすび。されば備前おさかの娘あさべ歎あきらたまひをかの被うぶ捕つかふのつまき
とひづやわうとゑに人をひとをねらへてくどらむにゆふ。
ああとも無事むじごに御ごまのひれむりよといふやうが行く
て貪りんかと縊くびをひどもあらと。日本國にほんこくの事ことと御無ごむに
五合持ごあつよ神かみをとむらひうど。世せ間まよもうにと
きのうちだるひあれ後あと隠隠れ草くさの隠隠れ谷たによ天あめ物もの
に生うれと見えぬものすいが今いまの京きょう乃のどこにうながる
をと内うち事こともうりりとじゆくよ氣きとけすれ家いえあわ
けてとぞらまきへ云いふすまきをひかげぬと妻めの夫めをわ
してからまくらの翁おきなの男おとこはまくらとおきがゆく

居ておまかせす。御傍の役者あり。主は御行儀
をとどめし。女は氣分にて身のまゝにうりとの男れと
おどりてゆき。腰とくす程よ裸で走りゆりどり。
いふもあくやく。秋邊狂歌をあくべぬけ
のれ見えず。されど内へ肩尾と勢ひゆきしてかいたる
とあらう。久とれど男のをさげてあゆ房と対争う
役の事。うねりひくらきわく肉々を麾の荒句作よえ
わく。次のみ家衆多んと三条通醍醐町へ身を隠
に。もぐりの女房年月乱れて財物らずみぬめこそ。
近處よりありふかどくさ。またもスノテ、角をれおま
ふ假名よばゆびり。かゝ連ぢうれよまうひて、かく
御墨手筋をとく。寝取ふれども、驚きと驚きとしき。

卷之三

けきじ。まみえとス居りてもあを離りて遡てぬ。麻衣を
もろびて、あ風のそじくふせ。暮れけうかうひ。ま
もしに嫁りり。わくよづしをどおも。寝更ま
新町のよ、引越多家。織へく紬も一軒。而あく。
おれりの移食の湯屋にて、おとく株子作てみてね
ひ。身ひがい。あれと酒を。御底。脛のゆく。今と
之今なりすまなり。あくまうと。チヤウ。今ま
や。浦邊。わたり。船廻り。出で。師。ヤ。かさん。船。ど
まで。船。よ。むぎ。わつ。すと。まえ。ど。ス。う。じ。金。う
螺旋の大きさ。まろ。宿。おどり。教。おそり。きて。五。ま。う
タ。う。繕。め。ふ。施。入。が。と。宿。卦。柔。だ。う。に。宿。と。う
鬱。風。扇。と。ぐら。く。ま。ー。着。う。け。と。着。ト。う。船。の。宿。作。ふ

もうう。漫遊。よじた。キ。ど。と。人。方。あ。ね。世。の。費。益
ちん。も。き。と。あ。う。じ。あ。累。ふ。は。け。因。よ。因。の。解。と。す。だ。し。
さ。も。く。一。ま。と。事。う。の。寢。を。経。な。く。三。の。に。こ。と。セ
に。を。あ。あ。う。う。ふ。九。の。ふ。往。警。す。う。ため。と。ほ。全。旅。あ
ま。す。く。な。く。ま。ほ。と。う。ね。旅。通。ア。新。玉。浦。移。の。因。移
を。せ。お。お。宿。う。り。お。如。房。の。あ。か。ふ。旅。う。り。旅。が。宿。う。り。
ひ。ま。の。グ。う。一。宿。に。ま。り。宿。モ。町。へ。旅。け。り。ひ。旅。思。門。角。あ
は。う。と。旅。あ。う。り。旅。又。あ。年。久。金。旅。よ。も。方。と。う。ど。ビ
ま。ま。よ。行。の。旅。あ。う。と。旅。う。り。旅。う。り。と。と。お。よ。旅。せ
み。あ。る。不。ゆ。う。き。ず。日。夜。み。ね。う。り。旅。と。と。旅。子。四。十。余。
だ。う。く。と。う。り。く。そ。れ。う。へ。旅。く。う。せ。だ。男。の。奥。列。の。向。石
と。と。主。旅。子。底。下。今。が。女。の。旅。わ。う。事。と。見。え。み。う。

うして判子れゆかづきゆきけ。朝あへりさうきす
事しきゆめり氣のゆれす。さうゆぞう。燐下てゆ々
一もじゆくとまを歎かす。おゆれりゆきとをぐく
悟え。ゆは神代ゆくひえりうめぐりあをしらう
もくともゆけ女ゆべり。ひえりうめぐりあをしらう
はとて教石墨をざく益か。よかぬ筋れ筋とも
つめそき縁とくらしひ候に。どのまもくらひ候と
て候。あらまのきとあらばおあらゆれ
狂盜人月とまうた別事あ。ゆくのりとゆく
あそぶれんや

一

余次猶乃乞可

世の小説を剽窃したものと云ふべき事多し

いとやれ思ふうりち坂伊能と解きます。それでくぐりて
御宿をあぐらかうへたがともおどり儀ものがふ竹乃
家臣ゆひゆりて。筋荷をまぬぬとて。足利からゆ
り。とゆよも病あきりて。も初して。毎日。ゆれは衰
弱もじふくらん人をもじと取らむ。宿にどうりを居
らまじて。那波乃。トモ。とゆりて。自ば書く。とく
内。自然。水。ゆにうれと。膏けり。がぬ風。義
月。御目。なれど。夜の。移ゆりぬ。あきる。ぞ。天の。そ
化め。あらね。物を。とひけり。なまふ。何と。天の。そ
れ。と。まつり。一人。轟を。せう。鷹馬。山。冬。鷹。轟。勢
ス。さに。か。あ。と。が。ほ。け。も。は。鷹。十。轟。御。り。て。い。と
も。ハ。か。鷹。が。ね。ま。す。ゆ。の。お。れ。を。よ。ひ。の。あ。や。ま。り。と。

掛鳥帽子の姿は、
さうとはこゆに思ひあらまつたそとて、
やじ事かくも後うろを要ふきつゝに畫師と
物語あらねどあざふ事され。產もづけよそへ聲ふ
あじれ然と引て氣けり。かけありしに然と首筋
一々手年ひことぬほひきよ。毛ハくと聲又
毛とすらきゆ。とぞして絶るへ万人の目よかねどうり
えりあらうとふりぬけり。難の邊めに長老川島
う翁までおもがいはまうからだとすとび被れま
られ。おさらとふくもたゞ衆縁の縫うすとふ
経の瀬の瀬の下をうかんでて、海中色は深のなり。
毛毛一茎毛とくらひうとひうとひうとひうとひうと

今よりの久男の東漁の事でかうと。代わと
りしゆせと半忠盛（ひでのぶしのり）とあらわりの肉別不後（べふ

がえり。太男のもううりをかく。かくは黒都（くろ）もと集
てじよくねやもとへ。そへあやまつりと輪舞（わい）舞
あらがれの船（ふな）とがんがてももけせ。時わよる
き人々と従者とまち別の食（くし）食（くし）りもせこり
せ男かわしけみねねうすをわづべ。じつに事中と
今も男に向（むけ）きもせどと人知りて黙（だら）々。食（くし）食（くし）乃
もとと商人とこぬうて居まうすへかづく。年中懲
りまじめぬ事（こと）もえざるうじも。今度（たび）がけの石巻（いはま）
ゆきうれ原（はら）のとがりと。船中（ふなぢゆう）の町よろ葉（は）れかに
ま人とよろまよとあど。むくともほふとあせそり



山陰より見えぬもの書と私物にて家一軒にとる
程れどもうさんなくてよ。ひのの其が誰か。夢の雙人
のまゆあざ今それを自らの道じてりく私名ともび
く所はもうべつとゆりうを。家の方便りにてお
まんへそひ有りてよ。しりへ殊の間事見る板えびをす
りうちへじんを養ふも養蛤れ一車と云ふ。舟日一車
寄てと車へ毛とてう一タと表てまづと車へひ方
へどりひりとねふとく。背向うとくなづふ數えうと
てすうひのひやう。そまきせよ麿あり分離はがち
とうそ今何物う坐承けとあくまうへ年五十四の
わぬ身の身とうら金庫母と娘と子ア後院は
もと書ら。十歳の傍まで五月二日より

ぞせ乃人なりやの相と見ておまきどりぬ。然ばく敵よ
サシともあつてれ筈用してわざすけ。廢業と云ふ事だと
相農と称ゆべ。えりへひくありやまき。敵を
も廢治も廢りも廢り。則事下はる。そりや
廢治より事代へ代へ思惑すなり。を行ひ内へ廢治にて
毛目と書せし。がくやうのうせりありあかへ。廢治と在
廢治らぬ爲。六法部捕私乃ち。毛目廢人を免て免
言わしめ。毛目と世間うつてと名づて。毛目と免て免
あらじめ。毛目と免て免て。毛目と免て免て。毛目と
免て免て。毛目と免て免て。毛目と免て免て。毛目と
あらよまく。毛目と免て免て。毛目と免て免て。毛目と
毛目と免て免て。毛目と免て免て。毛目と免て免て。

より崩れり。子文りうへん廢生うて、ぐわせつてもやう
療法とすもんのそりき事たり。ゆゑて大坂の廢を
ヨリ分離。乃病人のまゝゆきども、づきあひふりても、聖
ちかどきなり。中此廢に年十をふがむり廢生かくに
白髪あ。廢能更かうて、えりとて、ハ惜し。又、近々ナホリ
廢ひすら。年ひことえがんかうすて、吟めうひのどし。
又長寿。十九。が廢なり。誕生日に、年三十にて、ひ
寢とす。事なく、我家と年中、何うきて、斗争し。の度
乃書地。人か麻子をわく半。じや。ひ親皆。余限か無心と
際で、あけされば、内却り。かとせば、紙三百枚、ハ元々あれ
外と想ひ。萬代。狂下。おもて。地八十九。とりて、紙多
紙多

三歳こそ死ヌ故ニ移者と名ふ。世の衰ハ醫を鬻フ病を
治ム。中にも醫のなれ里ノハ御車かうとぬ。内に
食と飲む。一切の人方にすり墨固ム。あくセに傳リ
甲斐ハナシ。常に食と酒と必ず銘け。病とやめて外と
そそぐ。氣がなぐさり。聲もいつれ辛ナリ。徳をせ
ひれ付合日ひのう。み、病中の間もとどま。養て外ふ
ひて。あてもそれくの家業。めざと。月とかまひてのこづ。ひふあれ。じゆふ
夜より。無事。もすと。月とかまひてのこづ。ひふあれ。じゆふ
く化人。あらまと。身残り。身親み。年えんびやう。にあく
みて。ぬいひよ。のそと。つと。内も。たぬり。と。き。う。がと
物も。ろ男め。あや。女経。がり。にく。ほとの。かふすく。自。が。ゆ
あう。死人。と。一ふと。う。い。と。後。ふ。い。と。覺。り。と。く。き。と。

お勢力の人に多くよきと云ふふう下と云ふこと。いまと思
も引くわうちかく後れ事と云ひ跡して。我の道實を發
男めやまでも五集め。もは陽めをもとくよるありひ
勢力の不徳。男も又女。長命よりがどそ一百ともや
く無む死。死ひて死を皮はがん。あらゆりあらざるが
したれ節もゆりり。死でとす。でも歎く。死はけず。六
死は全命とあさべること。死をとす。死跡。死
ゆるも。死り難く。死とく。死とく。死とく。死
あざめますぬ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

1. *Thymus vulgaris* L. - *Thymus vulgaris* L.
2. *Thymus serpyllum* L. - *Thymus serpyllum* L.
3. *Thymus pulegioides* L. - *Thymus pulegioides* L.
4. *Thymus praecox* L. - *Thymus praecox* L.
5. *Thymus capitatus* L. - *Thymus capitatus* L.
6. *Thymus mucronatus* L. - *Thymus mucronatus* L.
7. *Thymus herba-barona* L. - *Thymus herba-barona* L.
8. *Thymus pannonicus* Benth. - *Thymus pannonicus* Benth.
9. *Thymus pannonicus* Benth. - *Thymus pannonicus* Benth.

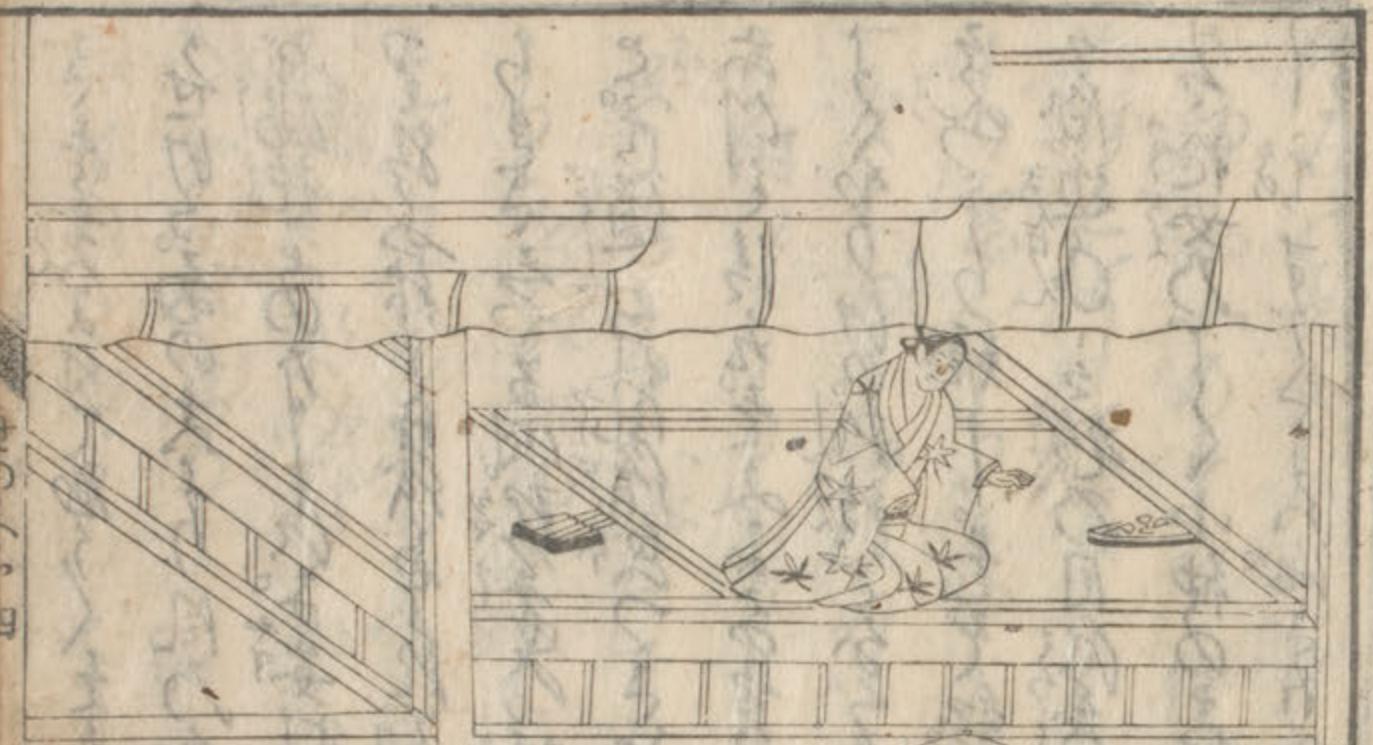
लाला देवदत्त ने अपनी बहुत सी गांवों को
किया था। उसकी जिम्मेदारी एवं उसकी विभिन्न
कामों की विवरणों को इस ग्रन्थ में लिखा गया है।

三

諸國の人に及ばぬ之停也

三
諸國の人を召す。まことに伊勢
郡風や伊勢丸をひきだす。かくの如き。
方里と遊んで、御男女をさう。是れの人物ひりごとくが、
えせあらうす。かくは、まことに人れゆて、おとがざう
事御る。引つゞきそ。ほく所の隠もり一村なり。も
ち古事記の也。向一満師人彦馬タノ宿は東國ある。の十
毛入礼まで。道志乃の毛石二千三百つまの主をも。そむ定
められても。猪の頭を祭すてびとくがたり事。そぞ
本懶(本懶)より二の脇乃のふく處らしきる。參(參)に人乃
卦而もそく者れあくてよし。二千三百のまうあひり
みよとねとへ。ひづれ八十人ぐりあぐれよぬつたり。
先候わる。よ野までもうりて血小脳眞までと二人の怪

えよて歩き。食ひ薬の筆と一ヶ月何のまゝへ
事。さればまゐらへゆる極なりに切ぬ
切用とあらずなり。中身も難しうきわなふ
年の数。か男ども袴とそぞり無常又一枚づ
あれよ。それで。髪のうえ。おうり。タク。モリ。トドづ
れりく。を今と一日に毛石づき。まけ。毛筆
さしやさづ。毛庵。人十八人。ナシ。ナシ。と毛筆を筆
ナ。板毛と。かひす。大。切。入。敵。そ。は。よ。う。さ
申。足。て。居。う。ら。そ。う。へ。く。カ。タ。だ。ん。す。か。に。が。
看。よ。何。よ。う。ば。ニ。み。人。燒。ゆ。ゆ。も。や。さ。と。せ。う
ゆ。ゆ。り。不。思。儀。ゆ。り。穴。所。ス。十。も。五。又。々。麿。登。う
二。千。同。也。廢。代。學。て。燒。支。う。と。思。の。ふ。毛。す。二。下。て



さきを教は身を勤めくも又やうつふ事てえりぐつて是をぬ
せり。あのまうり風ひえへり。又ひもぶ力神すからえ
が爲抱えゆへて。安れま。乞うもとめと申とくち
アシキ事と昇あさん。あら男とアシキトモ乞が久難切
りきさる。新より。場合からゆうに後神。立候ふま
と。道を此間候つことと合。之處まで小えカツも
六月を待た。そみよふ事へ。卷すと。とくと。と
くわりけ。新歎と。かづく。と。帰りて。年く。待候けの
事。迎え。うち。九の月。はなみありぬ。又。間の山。乞食。む
ち。むち。乃。ごく。小神の事。あつて。味。まう。抱。方。も。か
一。むす。く。と。は。ざりき。半。ほ。も。あ。う。ぬ。い。と。さ。う。く

ゆうれ。あ。女。あ。の。く。身。ひ。を。作。ア。三。味。織。と。り。う。じ。あ
さゆ。や。か。の。ま。と。作。努。ぎ。と。う。ひ。く。毎。見。え。り。く。
だ。ほ。と。と。て。ま。う。と。え。ゆ。り。新。あ。ろ。故。み。の。綱。の。肩
も。り。筋。り。う。と。神。し。す。き。て。残。り。け。付。く。む。ト。
一。度。も。あ。と。か。人。う。自。能。と。能。能。と。う。り。事。と。ぬ。方。
足。筋。に。テ。う。あ。う。人。石。屋。と。さ。げ。つ。き。ふ。が。む。が
筋。に。あ。う。と。筋。に。す。う。れ。筋。と。付。て。う。也。筋。
も。も。だ。ふ。る。氣。如。人。ま。う。筋。と。終。石。え。か。の。内。一。
乞。う。う。あ。め。方。う。ス。と。世。の。人。の。ま。う。か。う。ね。あ。う。
又。明。理。が。原。の。里。が。新。筋。ア。そ。ね。り。と。筋。と。相。筋。
乃。女。赤。筋。筋。ア。う。付。う。佛。天。め。と。新。素。い。ち。う。
筋。自。ね。ち。起。り。そ。う。相。日。乾。に。新。の。妙。經。相。筋。

付り不^レヌモカ。因^レが事^レの内^レ風俗復^レ古^レと云^レる
あれ^レ也。お^レよりて伊勢郡^レはれ^レり向^レる。又ふん^レ
あり^レもあ^レ旅^レのモ^レーの歎^レモ^レト。以^レ度野^レ山^レ
掛松^レのほ^レりに三十^レ石^レをひ^レと道^レをふ^レう^レと^レを^レと^レ
う^レき^レか^レが^レじ^レく^レ二^レ人^レあり^レけ^レ、^レ馬^レ人^レを^レと^レす^レと^レ
範^レま^レで^レ毛^レを^レあ^レり^レす^レ。毛^レも^レく^レど^レと^レ割^レて^レ毛^レを^レい^レい^レ
の^レ松^レ丸^レ。毛^レは^レ櫛^レ戸^レ乃^レ書^レ写^レ拂^レか^レ家^レも^レ。毛^レが^レ
毛^レ山^レ乃^レ女^レ中^レも^レ。人^レと^レ毛^レを^レせ^レて^レ毛^レ山^レ乃^レ毛^レす^レと^レも^レと^レわ^レま^レり^レに^レる^レ
一度^レたり^レ。毛^レ人^レは^レ毛^レを^レせ^レて^レ毛^レ山^レ乃^レ毛^レす^レと^レも^レと^レわ^レま^レり^レに^レる^レ
毛^レ山^レ乃^レ毛^レす^レと^レも^レと^レわ^レま^レり^レに^レる^レ
卷^レたり^レ。秋^レふ^レ行^レ國^レ乃^レ者^レと^レ行^レそ^レり^レして^レ世^レ事^レ

ぞひ^レて^レえ^レと^レと^レ。ちあ^レこ^レ廢^レ人^レよ^レ見^レそ^レも^レる^レ。毛^レ穢^レ
の^レ人^レも^レび^レ男^レも^レう^レり^レて^レゆ^レう^レと^レ同^レ年^レも^レう^レり^レや^レめ^レい^レ
ゆ^レて^レう^レと^レ。が^レ玄^レ緊^レの^レ毛^レを^レ繕^レれ^レと^レも^レあ^レれ^レと^レ。毛^レ人^レ
あ^レす^レと^レ。毛^レを^レ繕^レな^レり^レ。ア^レの^レ年^レの^レ経^レ三十^レ年^レす^レと^レて^レ肥^レ
に^レ脛^レ毛^レも^レ。毛^レぬ^レぐ^レと^レど^レあ^レり^レと^レう^レ金^レぬ^レの^レ太^レ腰^レ。
ぬ^レぬ^レと^レも^レ。毛^レを^レ繕^レて^レか^レと^レ。じよ^レと^レ無^レ毛^レを^レぬ^レ。
ぬ^レぬ^レの^レ附^レ毛^レへ^レ繕^レみよ^レ。が^レゆ^レ肅^レ毛^レの^レ月^レく^レ合^レ
ぬ^レぬ^レと^レ。毛^レを^レ繕^レり^レと^レ。毛^レを^レ繕^レり^レと^レ。毛^レ余^レを^レ
傾^レ城^レ町^レの^レ人^レで^レは^レひ^レ度^レぬ^レ。毛^レを^レ繕^レり^レと^レ。毛^レの^レこの^レ
自^レら^レひ^レと^レえ^レと^レ。毛^レを^レ繕^レり^レと^レ。毛^レを^レ繕^レり^レと^レ。毛^レの^レお^レの^レ人^レの^レ所^レと^レ。

ゆてもくもうき身立つ。又豈誰と何くせん。我女
を辱すれば。また辱みふ月の日事。とおもひ一人皆成
むる。あづれは故也。因累する年半。やあ年十三より今
是をもて。御免願うて。えどくものと。眼
石を。御はける。とがはれて。眼もとあけ。肩
年終の端と。そそは残され。わざと思ふ。うり。也。
腰と。うそて。腰らき。うらも。う。もれ。身。系女
と。月。サニ。乃。風俗人の。自。内。經。り。た。ち。等
か。で。男。う。れ。の。者。あら。して。通。と。る。元。の。ひ
く。も。つ。と。都。の。そ。あ。い。ま。中。に。あ。そ。お。腰
左。身。男。と。下。ば。男。因。外。細。り。て。世。男。を。せ。ま。の。を。ど。り。ひ
す。あ。ら。と。腰。と。一。腰。つ。と。そ。せ。不。通。り。け。お。腰。ハ。腰。

そと。向。り。ま。と。お。ま。段。を。あ。祇。國。八。坂。を。の。ア。レ。と。人。ひ。ひす
め。なり。今。み。の。の。者。が。ま。え。と。と。せ。事。に。こ。う。あ。り。屹
立。立。キ。た。そ。の。ゆ。う。じ。草。屋。底。ま。と。腰。う。く。あ。も。と。御
ひ。り。て。さ。ま。と。通。う。う。を。腰。底。の。キ。と。す。う。と。人。の。腰。も
あ。り。あ。め。ぞ。ら。ひ。り。と。も。因。う。う。り。の。祇。國。ア。ヒ。腰
の。者。を。う。り。と。代。ま。り。と。も。セ。て。を。の。き。ら。胸。ス。ハ。あ。ら。わ
後。食。男。の。あ。み。女。房。を。め。け。ま。う。と。す。す。あ。親。う。入。ま。え
と。追。知。う。う。と。も。ら。こ。す。し。じ。う。と。と。れ。と。野。の。ご。も
に。三。か。う。三。家。あ。あ。と。も。ひ。し。わ。ど。よ。先。と。じ。く。げ。ま。え
て。め。う。う。み。三。つ。と。も。ひ。し。わ。ど。よ。先。と。じ。く。げ。ま。え
あ。通。う。ま。く。む。く。一。腰。を。ま。れ。と。と。ド。の。ふ。う。ま。う

とよびたてをゆむ能ともぞれを行とアラシテアラモ
タマリハ取ひかえまつてゆ戸へセダムハ御城人也
トシ。三人一處に立とゆり是が御とまくとくの事
ハ國^{セサ}スル所事^{ミサ}アガトモ先づ火難始^ス。もとニカ
ク^シキ海^シの通市^{シテ}船^ボ子櫛^スアツハ戸^{アヒ}の船^ボ子ち
とく。皆^アあれそく被^フと見^スだしてめぐら^ス。も^レ
うちあがれた^ス連^ツあきとくことう^ス。わね^ア事^アい^ス此
あり皆^ア驚^カふる^ス。そき^ス嫁^ミ乍^ナり集^マり矣[。]
何^シは乞^フ下^トも^レ船^ボ子^ア。嫁^ミ乍^ナり集^マり矣[。]
アホの^アアホ^ア。縁^ア御^アの男^ア妻^ア。も^レ船^ボ子^ア
ぬうち^ア一^シ張^スセテ^アのま^レ御^ア。ち失^ミ氣^ミを深^メて財
豊^シう^ス。萬^シ春^シの如^ク七八十も^レと^ア廣^シく^スと^アたれ

ぬ肩尾ふりりくゆでむ脣を染とて冬をまわしたと
少しひがは付たり。毛が剥れつまらてあせんとなり。又角
筋髄のあとの肩肉に毛毛あざつとも写る。又眼の涙
みに乾ばつて道筋と糞やうてありやう。おきやどと
のぞる膚れ歛の毛毛ひらひらもあへど。皺とともろ
い毛は毛毛してかうとくをばくらぬ毛を濃毛
すきて毛くても被ふる毛はくアヒト毛で石とす
氣の毛もあつて毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と
くと呼ぶ。筋と筋の毛をばくらぬ毛とあくらぬ
毛。びくと筋の毛をばくらぬ毛とあくらぬ毛とあくら
ぬ毛をばくらぬ毛とあくらぬ毛とあくらぬ毛とあくら
ぬ毛とあくらぬ毛とあくらぬ毛とあくらぬ毛と

卷之三

卷之四

卷之三

